

明治廿六年一月十三日

内務省

二日

房甲第三號

別紙執務時間繰替ニ關スル

件閣議ニ提出ス

明治廿六年一月十二日

内務大臣伯爵井上馨



内閣總理大臣臨時代理

内務大臣伯爵井上馨殿

房甲第三節

執務時間繰替ニ關スル件

客年十一月閣令第六号ヲ以テ各

官廳執務時限改定セラレタルモ

兵庫縣靜岡縣ノ如キハ本廳舎始

管下ノ諸廳舎概テ建築ノ不完全

ナルカ為メニ光線宜キヲ得ズ短

日ノ時ニ當リテハ午後四時以後

ハ点燈ヲ要シ又新潟縣岩手縣青

森縣山形縣秋田縣及北海道廳ノ

如キ緯度ノ差異ニ由リ標準時ニ

比スレハ太陽ノ出没早ク且冬期

ニ至レハ連日積雪窓戸ヲ埋没シ

書猶昏ク午后四時ヲ過クレハ帝
ニ燭ヲ秉リテ事ニ從ハサルヲ得
ザルノミナラズ日没後ハ幾多ノ
寒威ヲ加フルヲ以テ或ハ防寒ノ
用意ニ乏シク就中峯密四圍ノ郡
役所警察署又ハ直間税分署ニ在
リテハ暖爐等ノ設備ナキヲ以テ
頗ル困難ヲ感セリ此ノ如キ狀況
ナルニ因リ其經濟國庫ト縣稅ト
ヲ論セズ廳費ニ不足ヲ告クルニ
至ル又滋賀縣群馬縣及福井縣ノ
如キハ廳舎構造ノ不完全等ノ事
由ナシト雖モ薪炭油等ヲ要スル

僅少ナラサルヲ以テ執務時間繰
替ノ儀上申セリ右敷レモ地方ノ
狀況又ハ廳務ノ性質上止ヲ得サ
ルモノト認メ候付之ヲ許可セン
トス依テ本年閣令第一号ノ趣旨
ニ基キ閣議ヲ請フ
明治廿六年一月十二日

内務大臣伯爵井上馨



官務第六編

執務時間ノ儀ニ付テ

今般圖令之ヲテ各山官廳ノ執務
 時間改定ノ儀御達相成候處本廳
 ノ管下諸廳共達此等方ノ不完
 日ノ時：在テハ午後四時
 ハ執務スルコト得サレモ、
 新ニ洋燈ヲ買入れ差テ
 中ニ見込ミアラサレハ勿論
 水山各ノ為ソ一時多額ノ
 名所百方並兼シテ一ニ
 七果シテ本年度豫算内ニ
 於テ調理スル

下り得てキヤ及ヤ目下大ニ苦慮セシ次第ニ
 有之候ハ到底右費用ヨリ支辨ニ得ル目
 途無之候間本廳并ニ管下ノ諸廳共便
 宜其執務時間ヲ午前八時ヨリ午後四
 時迄ト致反右候ハ御達ノ意上ヨリ七度
 下スレテ費用ヨリ節スルヨリ得候義ト存候間何
 事特ニ御許可相成候様取反右ハ相伺也
 明治廿五年土月廿二日 兵庫縣知事岡田平印
 内務大臣伯爵井上馨自殿
 此ノ布文御聽許上ハ本縣令ヨリ此旨縣下
 へ至令取度候間是亦御申上相成候儀
 候申存候也

官中第三二〇三號

執務時間繰上ノ儀存伺

本年御令申上ノ事及右官廳執務時
 間改定セシ儀而縣下各郡役所如
 多クノ考案上其儀時ノ措置等ニ
 宜キヤ得テ目下甚クハ四時早ニ燈火
 藉ルニ非サレバ執務ノ妨ハ其儀
 之令田改定ノ時間ニ於テハ經費上
 固係ノ事ニ候ニ右等ノ場ニ經費
 相伺也
 明治廿五年土月廿二日

静長能子年北原華太郎

中務大臣伯耆井上敦秀殿

第一二三三號

執務時間ノ義ニ付伺

今般圖令才午年ヲ以テ各官廳執務時

間改定相成九月十一日四月十九日迄ハ午前九

時ヨリ午後五時ニ至ルノ時間ニ規定セリ候處

本縣ノ義ハ北地雪國ニシテ冬季ハ概シテ雨

雪日曇天ノ有之別シテ山部地方ニ至リテハ積

雪空ヲ埋メ白晝猶甚或日ノ如ク該地方ニ

於ケル郡役ニ致シテ署直間程分署ノ如キハ

常ニ接上ニ在テ執務係早況ニ有之候レシテ

午所四時ヨリ過クハ燈燭ヲ用キ其リ得ス加ルニ

寒氣酷烈ノ為メ日暮者ニ至レバ一層ノ寒冷ノ

消費ヲ要シテ常ニ執務ノ不便古クモナラズ

明治三十五年十二月二日

群馬縣知事 中村元雄

内務大臣 向 益 時 井 上 敬 香 殿

官内中下考一

明治三十五年閏令考之考之秋之官中

考之十月閏令考之考之秋之官中
初時間ノ義九十月十ヨリ四月十九迄年子
中九十月ヨリ年子中時迄ト比改之相成
書本縣下ノ冬期降雪ノ候ハ年子中
時過ノ頃ヨリ才薄暮ノ光景トナリ
セサレハ秋初ノ考之考之秋之官中
云々候共敬テ困難ノ義ハ無之候間右
初時間ノ義年子中時ヨリ年子中
ニ年子中時迄ノ考之考之秋之官中
云々候共敬テ困難ノ義ハ無之候間右
初時間ノ義年子中時ヨリ年子中
ニ年子中時迄ノ考之考之秋之官中

内務省

明治三十一年一月十日 福井府古事書院川邦花園

内務大臣伯爵井上馨方殿

秋

甲申年二月

執務時間操習之儀ニ付申

今般況令ノ事ニ付シテ明治廿五年般令

ノ事ニ付中改正相成候事其羽比方ノ状

トシテ毎冬冬季ニ至ルハ凡雪甚クモ

本縣ノ如キハ縣廳以下ノ各官衙共一廳

舎ノ周圍ノ寒キ執務スルノ事ナリセリ之カ

為メ毎午所四時ヨリ過ケルハ火セサシ

得ニ右ノ廳中火ノ生者其ノ事ニ付テ之

ニ馬ノ経費ノ事ニ付テカラス又近年ノ元

取歸上ニ付テ不便ニ付テ右等ノ状ニ御評

察上本廳ノ執務時間ノ事ニ付テ相

成候様御評事相成度此様上申候也

明以三子一りり 秋田守書王正清九原

内務大臣河野正上殿

年終 従ひり上る 年終の計り 年終の計り

送第三の一八號

執務時間之儀之付付

本年十一月閣令第六号ヲ以テ 執務時間御改
正相成候處 本廳ハ東經百四十度四十五分北緯四
十度五十分ニ位シ 標準時ニ比シ 日出日没トモ早キ
コト殆ント二十三分有之 殊ニ即今ノ如ク 風雪
ノ候ニ於テハ 外ニ障ヲ設ケルカ為メニ 光線
ヲ遮リ 四時ヲ過クルトキハ 點燈セカント得ナルニ至
ル加之日没後ハ 寒威一層甚シク 候處 防寒
ノ用意不行 居ニシテ 暖爐等ノ備モ無之 暖ヲ
取ルニ專ラ 火鉢ヲ用テ 依リ 炭ノ消費高非
常ニ相嵩ミ 自然國庫并ニ 縣稅中 消耗品費
ニ於テ 多額ノ金費ヲ要シ 經濟上 甚ク困難ノ

次第の如く之候尤も事務ノ都合より殊に短日ノ折柄夜中迄ノ執務ハ通常ノ如クハ候得共一般夜間勤務致候テハ夥多ノ火鉢ラニテ蠟燭ヲ使用スル者ハ廳中取締上ノ懸念モ不沙候間執務時間ノ儀本縣ニ限り十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ハ午前八時ヨリ午後四時迄ニ致度特別ヨリテ御間屆相成度此段相同候條至急仰御指揮候也

明治二十五年二月二日

青森縣知事佐和正

内務大臣伯耆井上馨殿

北海道廳
長官之房

第九七六號

執務時間ノ義ニ付上申

今般執務時間改定相成ル處本道ハ日出晚ク日没ハ最モ早シ殊ニ冬季曇天降雪ノ際ハ未タ全ク昇ルシサレニ燈火ヲ要シ執務上不便甚カラス且ツ燈費ヲ調査セシニ毎月金貳拾四圓餘即十月ヨリ翌年二月迄合金千八百四拾四圓參拾錢四厘ヲ要ス見込ニ有之目下經費節減ノ場合ニ付當廳ニ限り右四ヶ月間ハ便宜時方々繰上ケ日中執務スル事ヲ得ハ是等經費モ減シ且ツ便利ヲ得左間特ニ御裁可取成度着シ御裁可難カ成儀ニ有之候ハ右點燈費ハ經費増額ノ御詮議ヲ仰候別紙第一

辨日没時限調書及第一辨點燈費調書
添へ此般申上他

明治廿五年十二月八日

北海道廳長官北垣國道

内務大臣伯爵井上馨殿

第一號

日没調書

一 本年九月より三月迄札幌ノ日没ハ左ノ如シ

九月十五日			午後五時十七分
十月十五日			四時四十八分
十一月十五日			四時六分
十二月十五日			三時五十五分
一月十五日			四時
二月十五日			四時三十一分
三月十五日			五時十六分

二 東京札幌間日没ハ比較ハ左ノ如シ

月日	東京	札幌	札幌ノ方早キ
九月十五日	五、四七	五、一七	三十分
十月十五日	五、〇五	四、四八	十七分

十一月十五日	四、三三	四、〇六	廿九分
十二月十五日	四、二八	三、五五	三十三分
一月十五日	四、五〇	四、〇〇	五十分
二月十五日	五、二二	四、三一	五十一分
三月十五日	五、四七	五、一六	三十一分

三北海道本島、極南福山、北緯四十一度廿六分、極北宗谷、同四十五度三十一分、而シテ札幌、同四十三度四分、緯度ニ於テハ殆ト全道ノ中央、位スルヲ以テ札幌以南ハ日没稍遅シ其以北ハ稍早シト知ルベシ

四札幌ニ於テ日没早キ所以ハ緯度ノ外尚ホ二アリ一ハ札幌區ノ西方ニ高山連亘シ蜿蜒南ヨリ北ニ走ルヲ以テ太陽ノ西山ニ没シ暮色蒼然トシテ至ハ真白没(地平線ニ入ル)ヨリ早キト凡二三十分

二ハ冬季曇天多ク時ニ或ハ霏雪ニ合シ鎖シ暗澹トシテ日暮ルハ比較的早キノ感アリ

五又三月一日東京(北緯三十五度四十一分)ニ於ケン日出ハ午前六時三十三分札幌凡六時四十八分ニシテ凡十五分遅シ故ニ札幌ハ日出遅ク日没早シト謂フヘキ歟

六以上ノ時ハ悉ク標準時ニシテ今日使用スル所ノ時計ノ指示スル所ナリ

第二號

内務省

本年十月一日現員ニ對シ照燈費調書

官名	高等官	判任及警官	戸長	内勤巡查	雇員	筆生	合計
人員	三八	四〇一	一〇四	一四六	六二二	一八六	一四九七

備考本表外着守押子及小者如キハ定時点燈ヲ要セザルニ依リ除ク

現員	燈燭消費数	單價	毎日全高	毎日平均数	毎月金額	月数	十月ヨリ二月ヨリ金額
一四九七	七四八五	〇〇二八	二〇四九六	二二四六	〇七六	四	一八四三〇四

備考燈燭四時間燈火ニ得ルヲ以テ一本二日間ト見積リ如此

官考二五七號

執務時限之義、自軍清

本年十一月、改定之計、官廳執
務時間、改正相成、九月十一日ヨリ、四月十九日
迄、前九時ヨリ、午後五時迄、ハ時間執
務ノ規定に候、期内ニ於テハ
退廢時限日没后ニ相成トシ、燈等ノ為メ
退廢時限外ニ増額ヲ要シ、候ニ付テ出務
退廢時刻、リモ三十分、ハ課トシ、執務
ト相成、成ルベク、及テ章、議、候也

明治二十七年十二月

内務省大臣官廳

内務大臣官廳

内務省

事務整理、均定、ハ其ノ下、拍、ハ其ノ執
務、ハ其ノ勿、論、ハ其ノ其、年、時、ハ其ノ前、文
、自、ハ其ノ聽、之、相、成、度、以、段、及、上、申、也、也

明治廿九年一月九日

山形縣志事長谷部辰造

内務大臣御前井上馨殿

内務省

曾、テ、御、議、提、出、シ、テ、執、務、時、間、更、
ニ、關、ス、件、ハ、海、道、工、廳、ニ、接、付、分、別、紙、写
シ、通、更、ニ、上、申、候、付、可、然、レ、モ、以、扱、方、成、交、ハ、如
申、進、一、也、也

明治廿九年一月九日 内務書記友



内務書記友 申

内務省

北海道廳長官官衙執務時間ハ
十一月ヨリ二月マテノ間適宜時間繰上ケノ
義曾テ上申致シ候處右ノ左ノ通訂正
改度此段更ニ上申候也

自九月十日

從年前八時

至四月十九日

至午後四時

明治廿六年二月三日 北海道廳長官氏名印

内務大臣伯耆守井上馨香殿

内甲八

明治廿六年二月四日

内閣書記官



内閣總理大臣 齋

内閣書記官長

齋

外務大臣 小石

大藏大臣 奥

海軍大臣 祐

文部大臣 西

逓信大臣 西

内務大臣

陸軍大臣 尾

司法大臣 山

農商務大臣

~~山~~

内務大臣清議北海道廳兵兵庫外九縣
執務時間繰替ノ件

内閣書記官

齋

別紙内務大臣清議北海道廳并兵庫外九
縣執務時間繰替ノ件ハ地方ノ情況不得已
モト被認ニ付附箋ノ通閣議決定相成然ル
ハシ

内務大臣一通牒
廿六
印

十一
九

富甲第六三號

別紙富山縣執務時間繰替之
件閣議ニ提出ス
明治廿六年九月八日

内務大臣伯爵井上馨



内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿